

# 大分県

OITA Prefecture

# 2024

## 🔥 目次

- 1 大分県のすがた
- 2 大分県の経済・産業
- 3 大分県庁の組織と業務
- 4 大分県新長期総合計画
- 5 大分県行財政改革推進計画
- 6 令和6年度大分県予算
- 7 令和6年度の主な取組
- 8 大分県管内図、県のシンボル



日本一の

おんせん県おおいた  味力も満載

## (1) 大分県の位置

大分県は「アジアの玄関口」である九州の北東部に位置し、北側は周防灘に、東側は伊予灘、豊後水道に面しています。



## (2) 大分県の市町村

大分県は18市町村(14市3町1村)から構成されています(平成の大合併前は58市町村(11市36町11村)でした。)

総人口は約109万人(R6.3.1現在)であり、人口が最も多い市町村は県庁所在地である大分市です。総面積は約6,341km<sup>2</sup>であり、面積が最も広い市町村は佐伯市です(九州一)。

区 分	面積 R5.10.1 (km <sup>2</sup> )	世帯数 R6.3.1 (世帯)	人口 R6.3.1 (人)		
			総数	男	女
大分県	6,340.70 * A	495,119	1,090,789	519,256	571,533
大分市	502.39	215,441	471,676	226,787	244,889
別府市	125.34 * a	54,917	112,459	51,084	61,375
中津市	491.44 * b	38,481	81,265	39,894	41,371
日田市	666.03	25,262	59,446	28,290	31,156
佐伯市	903.14	28,193	62,497	28,960	33,537
臼杵市	291.20	14,487	33,918	15,930	17,988
津久見市	79.48	6,563	14,558	6,853	7,705
竹田市	477.53 * c	8,320	18,564	8,711	9,853
豊後高田市	206.24	9,737	21,537	10,325	11,212
杵築市	280.08	11,781	26,170	12,729	13,441
宇佐市	439.05	22,034	50,281	23,893	26,388
豊後大野市	603.14	13,430	31,478	14,731	16,747
由布市	319.32 * a	13,467	32,228	15,272	16,956
国東市	318.10	11,847	24,596	11,817	12,779
姫島村	6.99	804	1,538	719	819
日出町	73.26	11,376	27,340	13,075	14,265
九重町	271.37 * c	3,298	7,884	3,756	4,128
玖珠町	286.60	5,681	13,354	6,430	6,924

\* A 大分県及び福岡県、熊本県は境界の一部が未定のため、参考値である。

\* a 別府市及び由布市は、境界の一部が未定のため、参考値である。

\* b 中津市及び福岡県田川郡添田町は、境界の一部が未定のため、中津市は参考値である。

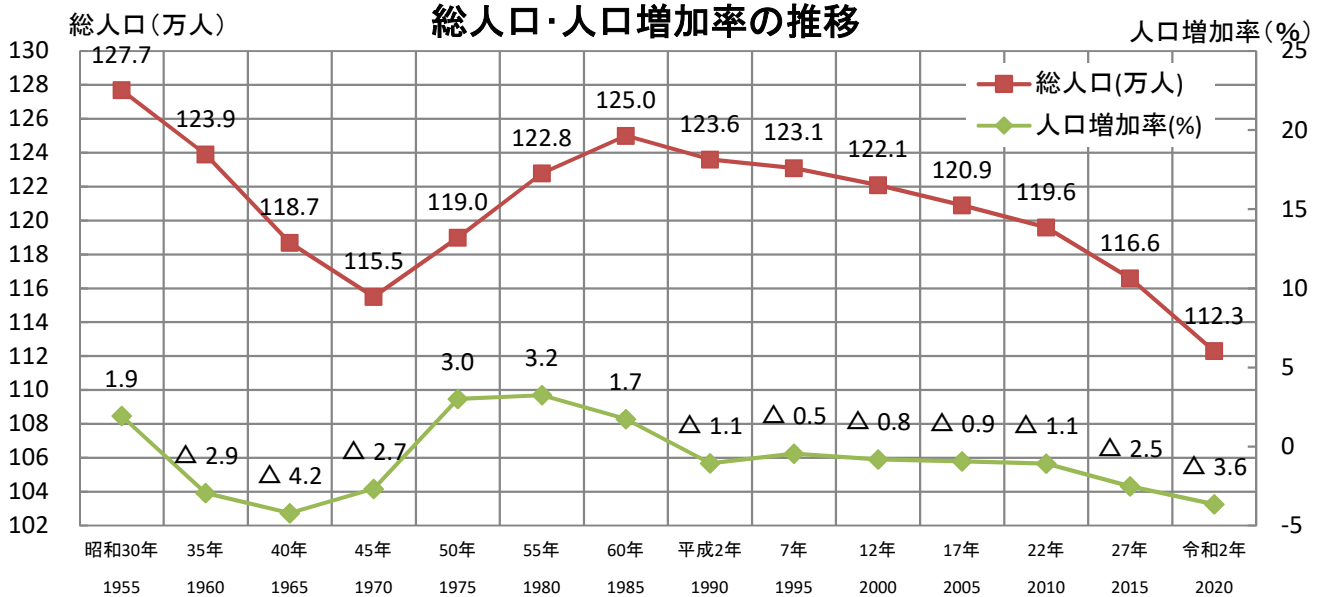
\* c 竹田市、玖珠郡九重町及び熊本県阿蘇郡小国町は、境界の一部が未定のため、竹田市及び九重町は参考値である。

※人口及び世帯数は、大分県毎月流動人口調査による推計値である。

### (3)人口の推移

大分県の人口は、昭和30年の127万7千人をピークに減少を続け、昭和45年には115万5千人にまで落ち込みましたが、その後は増勢に転じ、昭和60年には125万人となりました。

しかしながら、昭和60年を境として、東京一極集中や過疎化の進行等により減少傾向が続いており、令和2年には112万3千人となり、昭和40年に次ぐ大きな減少率となりました。



資料：総務省「国勢調査」

### (4)人口の将来推計

大分県の人口は、このまま何もしなければ、2100年には45.8万人と、人口減少がさらに進行するものと推計しています。

一方で、県民の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現など自然増を図り、併せて若者の流入・定着など社会増を促進することで、2100年でも90万～100万人程度の人口を維持できると考えています。

この人口維持の実現に向けて、地方創生の取り組みを進めることにより、特に、重要な要素である「合計特殊出生率」「出生数」「人口の社会増減」について、以下の指標を達成することが重要です。

合計特殊出生率	出生数	人口の社会増減
2025年(R7年) 1.83	2025年(R7年) 9,000人程度	2025年(R7年) 均衡



資料：大分県人口ビジョン(令和2年3月改訂)

## (5) 大分県の特徴

大分県は、温暖な気候に恵まれ、海や山などの豊かな自然、その中で育まれた新鮮で安全な食材、宇佐神宮や六郷満山、国宝臼杵石仏をはじめとした磨崖仏などの貴重な歴史的文化遺産など多くの地域資源があります。

また、なんとといっても県内全域に広がる温泉は、日本一の湧出量と源泉数を誇り、10種類ある泉質のうち8種類を有しています。

さらには、「The・おおいた」ブランドとして、関あじ・関さば、おおいた和牛などの高級食材をはじめ、かぼすやしいたけなど四季折々の素晴らしい食材も満載です。



日本一の温泉湧出量、源泉数を誇り、バラエティに富んだ温泉が満喫できる別府をはじめ、別府湾沿いに開けたエリア。海を望む水族館やテーマパークなどのレジャーも充実。



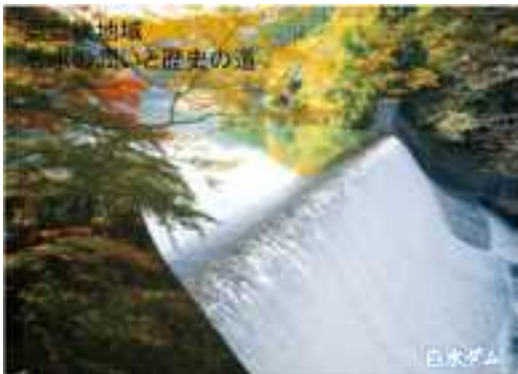
かつて宇佐神宮を中心とした八幡文化で栄えた宇佐地域と、「六郷満山」と呼ばれる独自の仏教文化が花開いた国東半島を中心とするエリア。磨崖仏や石橋など石造物も豊富。



江戸幕府の直轄地「天領」として栄え、今も当時の町並みと町人文化が残る日田、城下町の風情が息づく中津など、歴史の薫り漂うエリア。深耶馬溪一帯は奇岩奇峰と瀬流が織りなす景勝地。



1700m級の山峰が連なるくじゅう連山をはじめ、祖母・傾山系、由布岳など、雄大な山々に囲まれたエリア。四季折々に色合いを変える大自然の山歩きや高原散策、山間のいで湯を楽しめる癒やしのスポット。



清流・大野川の中・上流域に開けたエリアで、豊かな自然が清らかな水を育む名水のふるさと。「九州の小京都」竹田は、岡城趾など、当時の隆盛がしのばれる城下町。



日豊海岸国定公園に指定された美しいリアス式海岸が続く、大分県南エリア。旧藩時代のたたずまいが残る臼杵や佐伯など、海辺の城下町は情緒たっぷり。関あじ・関さばをはじめ、豊後水道で揚がる海の幸が絶品。

## (6) 大分県の日本一

天然自然が豊かな大分県には様々な日本一があります。特に、七島イの生産は全国で100%のシェアを誇っています。



温泉源泉総数  
5,090孔 (R4年度末)  
温泉湧出量  
295千kl/分 (R4年度末)



地熱発電設備容量  
174千kW (R3年度)



市町村指定有形文化財  
(建造物)  
757件 (R5.5.1)



道路トンネル数  
562本 (R3.3.31)



かぼす生産量  
5,900t (R3年)



乾しいたけ生産量  
769t (R4年)



七島イ生産量  
10t (R4年)



サフラン(花芯)生産量  
12kg (R4年)



マダケ竹材生産量  
21.9千束 (R4年)



ホオズキ出荷量  
1,157千本  
(R4年:切り花のみ)



石灰石生産量  
25,351千t (R4年度)



ひらめ養殖収穫量  
528t (R4)

## (7) 大分県の歴史

大分県は、古くは豊の国と呼ばれ、7世紀の終わり頃、豊前・豊後の二国に分けられました。

8世紀には宇佐八幡宮が全国4万社の八幡の総本宮として栄え、また、国東半島には「六郷満山」と呼ばれる独自の仏教文化が開花しました。

13世紀の初め(鎌倉時代)、豊後には大友氏が守護として入国し、以後約400年間統治が続きました。特に、大友宗麟の時代には、豊前を含め北部九州6か国を支配するまでとなりました。大友宗麟は、キリシタン大名としてキリスト教や西洋文化を積極的に取り入れました。府内(現在の大大分市)、臼杵には中国船やポルトガル船が入り、「南蛮貿易」が盛んに行われ、国際都市として繁栄しました。

16世紀末、豊臣秀吉によって大友氏が除国されると、領国は極端に細分化されました。その後約300年間、小藩分立の時代が続き、県内各所に城下町文化が開花したことにより、自主自立の気風を育み、個性豊かな人材を生み出しています。

明治になると、大幅な府県改廃が進められ、豊後国は大分県に、豊前国は小倉県になりました。

その後、県の統廃合が行われ、下毛・宇佐両郡が大分県に編入され、今日の大分県域となりました。

3世紀	宇佐邪馬台国説
720ごろ	「豊後国風土記」成る
731	宇佐八幡宮、官弊社となる 六郷満山文化、国東半島を中心に展開
1551	フランシスコ・ザビエル来訪
1871	廃藩置県により大分県誕生
1876	下毛、宇佐郡を大分県に編入し、現大分県域が確定
1962	県庁舎が現在の場所に建設される
2006	平成の大合併により18市町村となる

## (8)大分県の偉人

(近世…安土桃山、江戸時代)

**大友 宗麟**

(戦国武将:1530~1587)

キリスト教を保護・推奨、西洋文化をいち早く取り入れ、ポルトガルと親交を結んだキリシタン大名

**黒田 官兵衛**

(戦国武将:1546~1604)

豊臣秀吉の側近として活躍し、天下統一を支えた天才軍師

**前野 良沢**

(中津藩医:1723~1803)

解剖書「ターヘル・アナトミア」を杉田玄白らと翻訳し、「解体新書」として出版

**田能村 竹田**

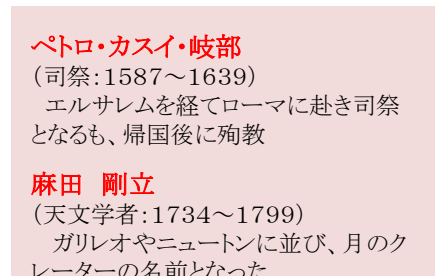
(南画家:1777~1835)

詩・書・画一体の独自の風雅の世界を確立し、代表作のいくつかは国の重要文化財に指定

**広瀬 淡窓**

(儒学者、教育者:1782~1856)

近世最大の私塾 咸宜園を創設し、門下三千有余の中から多方面に人材を輩出

**ペトロ・カスイ・岐部**

(司祭:1587~1639)

エルサレムを経てローマに赴き司祭となるも、帰国後に殉教

**麻田 剛立**

(天文学者:1734~1799)

ガリレオやニュートンに並び、月のクレーターの名前となった

**大蔵 永常**

(農学者:1768~1860)

九州各地をはじめ、大阪から東北にまで農業技術を学ぶ

(近代…明治以降)

**福沢 諭吉**

(啓蒙思想家:1835~1901)

慶應義塾の創設者であり、「学問のすゝめ」「西洋事情」などを執筆。一万円札の肖像としても有名

**滝 廉太郎**

(作曲家:1879~1903)

明治の中期、音楽界に彗星のように現れ、「荒城の月」「花」など不朽の名曲を残した。23歳で死去

**野上 弥生子**

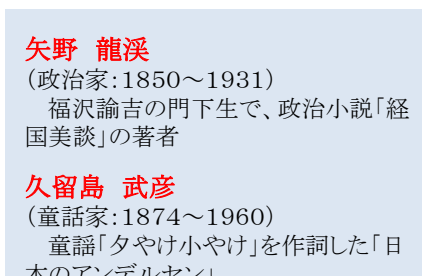
(小説家:1885~1985)

夏目漱石の指導を受けて小説を書き始め、「海神丸」「秀吉と利休」など多数の作品を発表

**双葉山 定次**

(大相撲力士:1912~1968)

前人未踏の69連勝を誇る第35代横綱。愛称は「不世出の横綱」「相撲の神様」「昭和の角聖」

**矢野 龍溪**

(政治家:1850~1931)

福沢諭吉の門下生で、政治小説「経国美談」の著者

**久留島 武彦**

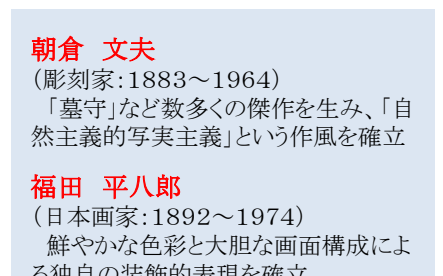
(童話家:1874~1960)

童謡「夕やけ小やけ」を作詞した「日本のアンデルセン」

**堀 悌吉**

(軍人:1883~1959)

平和と軍縮を希求した知性派海軍中将

**朝倉 文夫**

(彫刻家:1883~1964)

「墓守」など数多くの傑作を生み、「自然主義的写実主義」という作風を確立

**福田 平八郎**

(日本画家:1892~1974)

鮮やかな色彩と大胆な画面構成による独自の装飾的表現を確立

**高山 辰雄**

(日本画家:1912~2007)

日本画と洋画の壁を取り除く独自の創作を展開

(1) 県民経済

令和2年度の一人当たり県民所得は2,604千円となっています。



資料: 県統計調査課

(2) 産業構造



資料: 県統計調査課

令和2年度の県内総生産(名目)は約4兆5千億円となっており、近年は横ばい傾向となっている。

また、生産額及び就業者数は、いずれも第3次産業が最も多く、次いで第2次産業、第1次産業の順番となっています。



### (3) 産業の状況

#### ① 農林水産業

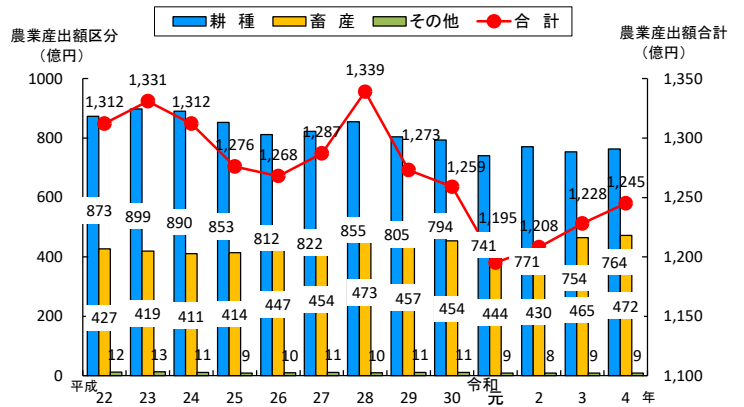
農業では、米のほか野菜(白ねぎ、トマト、いちご等)、果樹(なし、かぼす等)、花き(キク、スイートピー等)の園芸作物や肉用牛を中心とする畜産など、県内各地域の立地条件を活かして多様な展開がなされています。

林業では、日田市、佐伯市を中心とした、スギの木材生産や、豊後大野市や竹田市を中心とした乾しいたけ生産が盛んです。

水産業では、主に単価の高い中高級魚の養殖をはじめとした漁業が営まれています。

#### 農業

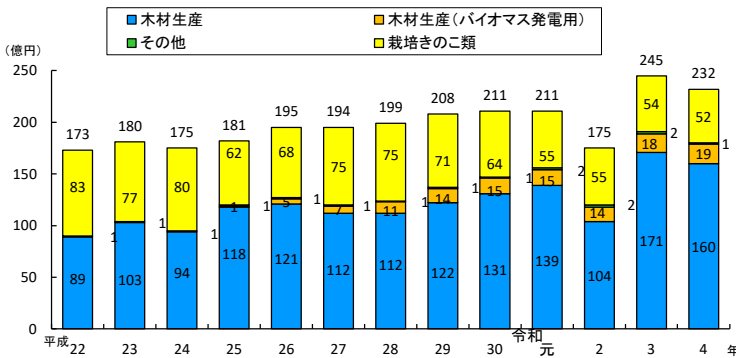
農業産出額の推移



資料: 農林水産省

#### 林業

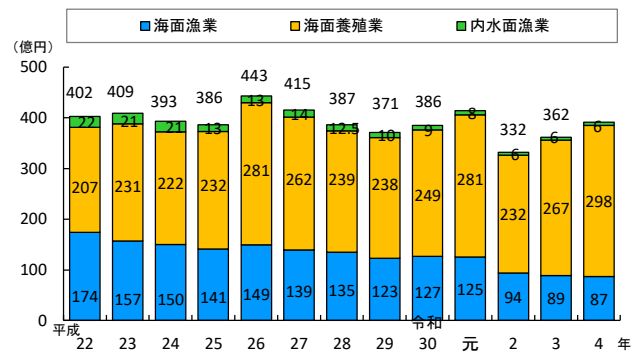
林業産出額の推移



資料: 農林水産省

#### 水産業

水産業産出額の推移



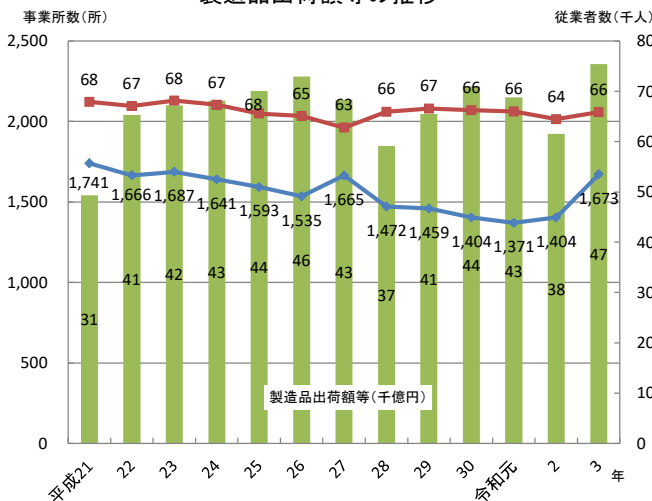
資料: 農林水産省、県水産振興課

#### ② 商工業

大分県には、鉄鋼、石油、化学、半導体、機械、自動車、医療機器など幅広い産業がバランスよく立地しており、製造品出荷額等(令和3年)は約4兆7千億円となっています。(九州2位)

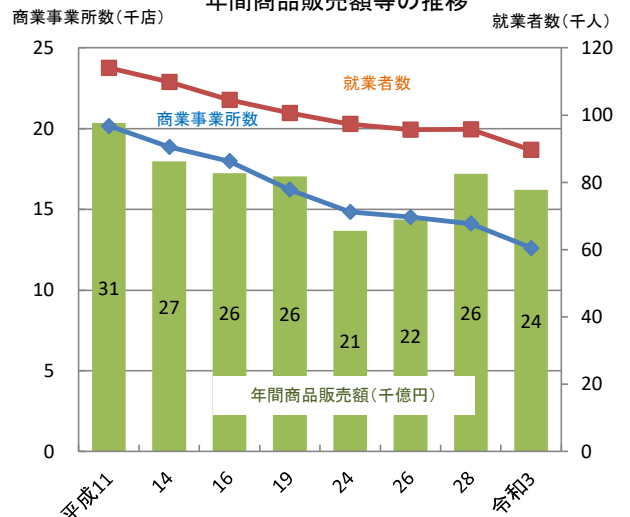
商業については、商業事業所数は減少が続いています。年間商品販売額(令和3年)は約2兆4千億円となっています。

製造品出荷額等の推移



資料: 経済産業省(経済構造実態調査他)

年間商品販売額等の推移



資料: 経済産業省



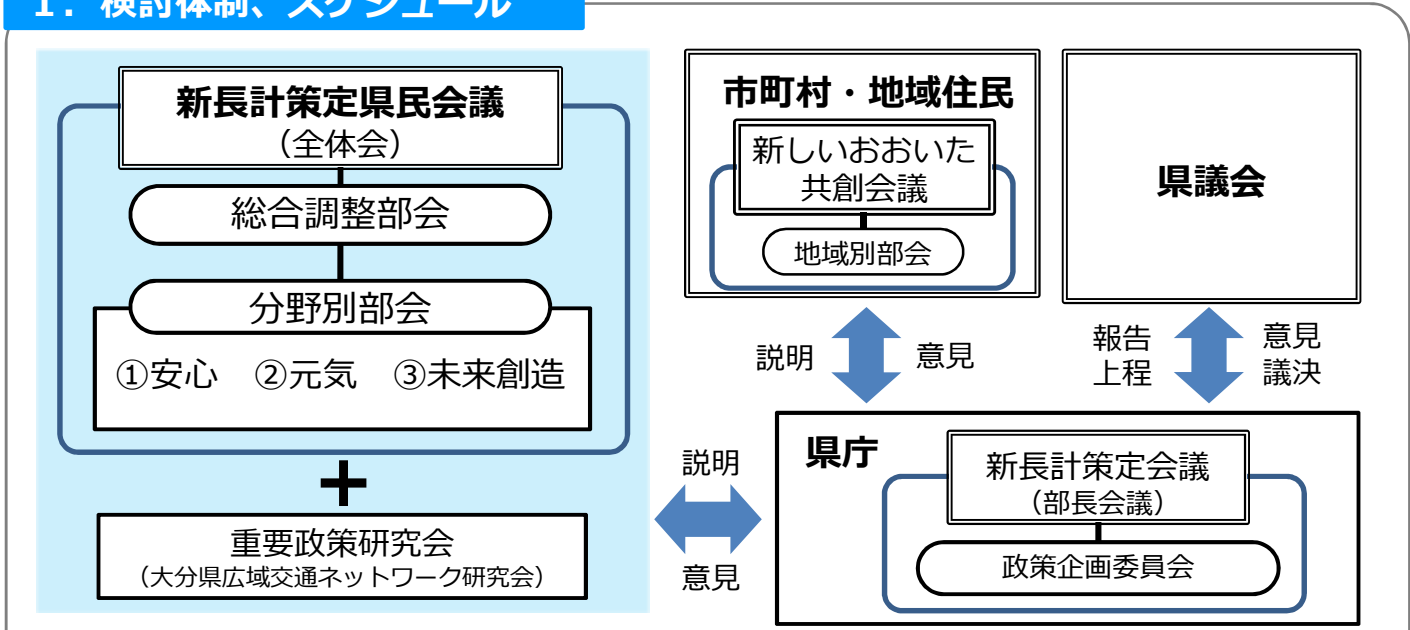


※このほか、行政委員会として選挙管理委員会、海区漁業調整委員会、内水面漁場管理委員会、収用委員会があります。組織改正等により変更となる場合があります。



- 現行計画「安心・活力・発展プラン2015」の計画期間はR6年度まで
- 時代の要請等を踏まえ、多くの県民の声を反映させた新たな長期総合計画を策定中

1. 検討体制、スケジュール



◆スケジュール (見込)

R5						R6								
7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		◆①全体会 ◆①分野別部会		◆①総合調整部会				◆②総合調整部会		◆③総合調整部会			◆②全体会	
			◆②分野別部会				◆③分野別部会		◆④分野別部会					
県民意識調査		高校生アンケート		関係団体意向調査						パブリックコメント				
▼共創会議 (市町村長)				▼共創会議 (地域別部会)		▼共創会議 (市町村長)		▼共創会議 (市町村長)		▼共創会議 (市町村長)				
●第2回定例会 (検討体制・スケジュール見込)				●第4回定例会 (基本目標、政策・施策体系等)		●第1回定例会 (主な取組、想定する目標指標)		●第2回定例会 (素案)		●第3回定例会 (計画案上程)				

2. 計画の性格・役割

県行政の長期的、総合的な指針を示した最上位計画であり、県民と行政が目指すべき目標を共有し、その実現に向けて連携しながら、ともに努力する内容を明らかにするもの

3. 計画の期間

令和6年度(2024年度)を初年度とし、令和15年度(2033年度)までの10年間とする。ただし、中間年にあたる令和10年度(2028年度)に見直しを行う。

4. 基本姿勢

1. 対話：県民一人ひとりの声が政策の原点
2. 連携：多様な主体との連携が県政推進の原動力
3. 継承・発展：従来からの取組を加速させながら、新しい大分県づくりに的確かつ果敢に取り組む

# 「大分県新長期総合計画」の構成（案）

## 時代の要請や潮流の変化

### ○想定を上回るスピードで進む人口減少

- ・自然減の急激な流れの緩和
- ・社会増への好機
- ・人口減少社会への適応

### ○多様性を認め合い共生・共創する社会への要請

- ・「誰もが活躍できる」社会の実現
- ・「誰一人取り残されない」社会の実現
- ・多様な主体との連携・協働

### ○地球環境問題の深刻化と自然災害の脅威

- ・強靱な県土づくりと防災対策の高度化
- ・大分県版カーボンニュートラルの実現

### ○新興感染症対策と社会経済活動の両立

- ・コロナ対応の経験を踏まえた新興感染症等への備え
- ・人流の回復を追い風にした地域のさらなる元気創出

### ○産業を取り巻く環境の劇的な変化

- ・県経済を支える産業の成長
- ・多様な産業を担う人材の確保・育成

### ○デジタル社会の進展と加速する先端技術の活用

- ・あらゆる分野におけるDXの推進
- ・先端技術への挑戦

## 【基本目標】

- 誰もが**安心**して**元気**に活躍できる大分県
- 知恵と努力が報われ**未来**を**創造**できる大分県

## 【分野別政策 19政策 57施策 133指標】

### 安心

- 1 災害に強い県土づくりと危機管理の強化
- 2 持続可能な環境づくりの推進
- 3 すべてのこどもが健やかに生まれ育つ温かい社会づくり～子育て満足度日本一の実現～
- 4 健康長寿社会の構築と安心できる医療・介護の提供～健康寿命日本一の実現～
- 5 障がい者が心豊かに暮らし働ける社会づくり～障がい者活躍日本一の実現～
- 6 多様性を認め、互いに支え合う社会の構築
- 7 誰もが安全・安心に暮らせる社会づくりの推進

[7政策 24施策 49指標]

### 元気

- 1 自ら考え・動き・みんなで実現する元気な農林水産業
- 2 力強く元気な経済を創出する産業の振興
- 3 地域の特色を活かしたツーリズムの推進と観光産業の振興～世界に選ばれるおんせん県おおいた～
- 4 海外の成長を取り込み共に発展する大分県の実現
- 5 誰もが自分らしく、いきいきと活躍できる社会づくり
- 6 芸術文化による創造県おおいたの発展
- 7 「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進

[7政策 16施策 42指標]

### 未来創造

- 1 未来へつながる交通ネットワークの充実と企業立地・産業集積の促進
- 2 地域の未来を担う人材の確保と魅力ある地域社会の形成
- 3 大分県版カーボンニュートラルの推進
- 4 デジタル社会の実現と先端技術への挑戦
- 5 変化の激しい社会を生き抜く力と意欲を育む「教育県大分」の創造

[5政策 17施策 42指標]

※令和6年5月時点

県は、平成16年に「行財政改革プラン」、21年に「中期行財政運営ビジョン」、24年に「行財政高度化指針」、27年に「行財政改革アクションプラン」を策定し、不断に聖域なき行財政改革に取り組み、一定の成果を上げてきたと考えています。

しかしながら、今後2040年頃にかけて、急速な人口減少・少子高齢化に伴って、官民双方の担い手不足や医療・介護需要の増加、税・社会保険料の増加といった課題が生じるおそれがあります。また、社会資本や公共施設も、2040年にかけて老朽化が進み、更新費用の増加や料金収入の減少等の課題が生じるおそれがあります。

こうした課題を克服し、持続可能な行財政基盤を確立するため、令和2年3月に「大分県行財政改革推進計画」を策定し、先端技術を積極的に活用した次世代の社会の姿を見据えた新たな行政運営の仕組づくりを進めています。

計画期間 令和2年度～6年度までの5年間(改訂後のプラン2015と連動)

行財政改革推進計画の体系

県民  
「夢と希望あふれる大分県」の実現



「安心・活力・発展プラン2015」  
「第2期まち・ひと・しごと創生大分県総合戦略」に掲げる政策の実現

次世代型「スマート県庁」の実現

(革新的な先端技術を積極的に活用した次世代の社会の姿を見据えた新たな行政運営の仕組みづくり)

行政運営

- ◆ 行政手続の電子化・業務の効率化
- ◆ 市町村における行政手続の電子化・業務の効率化
- ◆ 市町村の連携による効率化
- ◆ 多様な主体との協働
- ◆ 内部統制

社会保障

- ◆ 疾病予防と重症化予防等による医療費適正化
- ◆ 介護予防と自立支援
- ◆ 高齢者の活躍・社会参加

社会資本・公共施設

- ◆ 長寿命化・予防保全の推進
- ◆ ICT等を活用した建設現場の生産性の向上
- ◆ 市町村のインフラ維持管理業務の支援
- ◆ 県有建築物の利活用促進

財政資源と職員人材の活用

- ◆ 健全財政の堅持と次世代の社会を見据えた戦略的な投資
- ◆ 職員人材の確保・育成
- ◆ 働き方改革の推進

県庁

## 新たなステージへの船出～「安心」「元気」「未来創造」の大分県づくり～

今年度は、知事就任後、初めての当初予算となり、様々な場でもいただいた県民の皆さんの声を基に、誰もが安心して元気に活躍できる大分県、知恵と努力が報われ未来を創造できる大分県の実現に向けた施策をできる限り予算に盛り込みました。

少子高齢化や人口減少等の厳しい状況を乗り越え、明るい未来を切り開くため、県民との対話を通じて必要な政策を見定め、変化を恐れず次の三つを柱に県政に臨んでいきます。

一つ目は、誰もが安全で安心して暮らせる大分県づくりです。県民の安全を守るため、県土強靱化を進めるとともに、新たな感染症への医療提供体制等の整備に取り組みます。

また、子育てにかかる経済的負担の軽減に取り組むとともに、生涯を通じた健康づくりや需要が増す在宅医療の提供体制を強化します。

二つ目は、県民が元気に活躍できる大分県づくりです。農林水産業では、成長産業化に向け、大規模園芸団地の整備や畜産の低コスト化、早生樹による再造林、全国豊かな海づくり大会を契機とした水産振興に取り組みます。

また、物価高騰などで厳しい環境にある中小企業等に対し、制度資金融資等を通じて経営力強化を図るとともに、賃金と物価の好循環に向け、賃上げ枠等により賃金上げを後押しします。

さらに、福岡・大分デスティネーションキャンペーンの成功に総力を挙げるとともに、海外プロモーションにも積極的に取り組みます。

人手不足も喫緊の課題です。若者の県内就職や、仕事と育児の両立、社会人の学び直し、外国人材の受入れ等の取組を強化します。

三つ目は、新たな魅力を生み出す未来創造の大分県づくりです。企業誘致を加速するため工業用地の確保や中九州横断道路等の整備を促進するほか、未来への投資として東九州新幹線や豊予海峡ルートの実現に取り組みます。

また、GXを推進するため、グリーンコンビナートおおいたの実現や水素の利用促進等に力を入れるとともに、今後高い成長が見込まれる次世代空モビリティや宇宙など新産業に挑戦する県内企業を支援します。

さらに、教育の分野では、未来を担う子どもたちがどの地域でも希望する教育を受けられるよう、遠隔授業の環境を整備するなど教育県大分の創造に一層注力します。

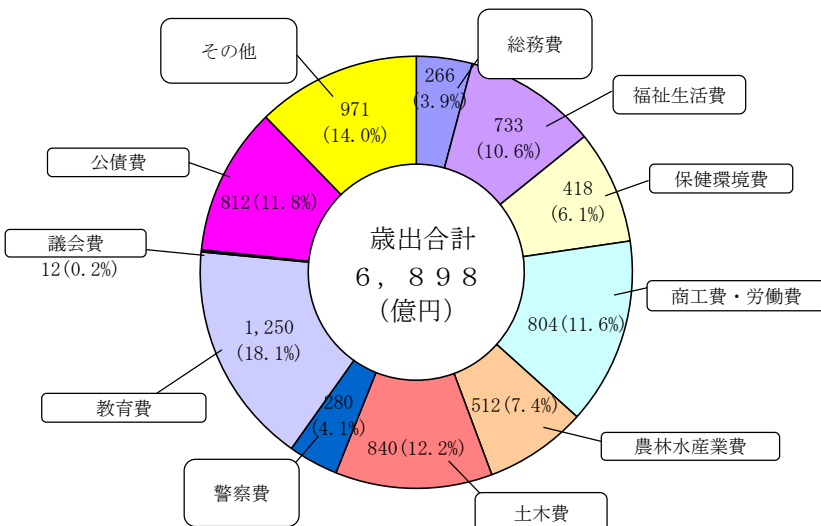
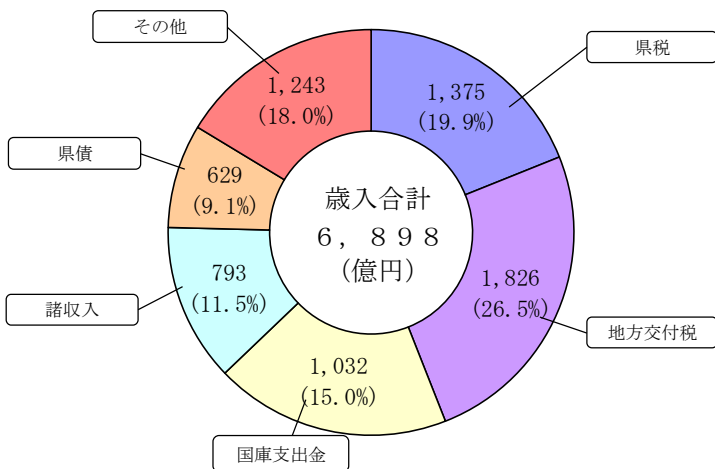
加えて、想定を上回るスピードで進む人口減少対策についても、地域公共交通の維持確保などにしっかり取り組んでいきます。

「安心」「元気」「未来創造」の大分県づくりを、県民の皆様と一緒に取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

県税	県民税、自動車税、事業税などの税金
地方交付税	国から交付される用途が決められていない財源
国庫支出金	国から交付される用途が決められた財源
諸収入	貸付事業の償還金、宝くじ収入など
県債	道路や公共施設等を作るための借金
その他	特別会計や基金からの繰入金など

令和6年度一般会計予算 6,898億円  
(前年度比 1.05%減)

総務費	政策や計画を立案したり、地域活性化のための事業等の経費
福祉生活費	子育て支援や高齢者、障がい者福祉のための経費
保健環境費	健康増進や食の安全・安心、環境保全のための経費
商工費・労働費	企業の活動を促進したり、求職者の支援等をする経費
農林水産業費	農業、林業、水産業の振興を図るための経費
土木費	道路や橋、河川、下水道等を建設したり、修繕したりするための経費
警察費	犯罪や交通事故を防ぎ、県民の安全・安心を守るための経費
教育費	学校を建設したり、文化やスポーツを振興するための経費
議会費	県議会を運営する経費
公債費	県債を償還する経費
その他	災害復旧費など



## (1)「安心」の大分県づくり

## 【災害に強い県土づくりと危機管理の強化】

- ・豪雨や台風などによる洪水被害を未然に防止し、国東市街地の安全性を向上させるため、安岐ダムの再整備を実施します。
- ・感染症発生の予防及びまん延防止の施策を講じるため、医療提供体制や検査体制を整備するとともに、人材の確保・育成に取り組みます。



安岐ダムの再整備

## 【子育て満足度日本一の実現】

- ・子育て家庭の経済的負担を軽減し、子どもたちの健康保持と健全育成を図るため、子ども医療費助成の対象に高校生の年代を加えます。
- ・保護者の経済的負担を軽減するため、給食を実施する県立学校において、給食費を無償化します。
- ・医療的ケア児を養育する家族の負担軽減のため、一時預かり等を目的とした保険適用外の訪問看護利用費を助成するとともに、修学旅行等における付添い看護師を配置します。
- ・近年増加傾向にある児童虐待に適切に対応するため、一時保護所及び児童相談所の受入環境改善等の施設整備を行うとともに、関係機関との連携及び児童相談所の対応力等を強化します。
- ・ヤングケアラーなど支援を必要とする子どもや児童虐待のおそれのある家庭を早期に発見し、適切な支援につなげるため、実態調査を行うとともに、市町村と連携した見守り・相談体制を構築します。



子ども食堂

## 【健康寿命日本一の実現】

- ・健康寿命の更なる延伸を図るため、県が設定した13の健康指標の改善に取り組む市町村を支援します。
- ・在宅医療の提供体制を強化するため、遠隔診療時に介助を行う看護師を派遣する訪問看護ステーション等を支援します。

## 【障がい者活躍日本一の実現】

- ・障がい者雇用を推進するため、企業の人事担当者を対象とした研修会や経営層向けの啓発を行います。
- ・誰もが必要な情報にアクセスできる環境を整備するため、視覚障がい者や聴覚障がい者を対象にICT体験会を開催します。



点字図書館が実施したスマホ体験会

## 【多様性を認め、互いに支え合う社会の構築】

- ・パートナーシップ宣誓制度を導入し、性的少数者への社会全体の理解増進を図るとともに、当事者の安心感の醸成や困りごとの解消のため、相談窓口の対応時間を拡大します。
- ・地域共生社会を実現するため、高齢者や障がい者など住宅確保要配慮者の住まいと暮らしの確保に向けた市町村の取組を支援します。

## 【誰もが安全・安心に暮らせる社会づくりの推進】

- ・特殊詐欺等の被害を防止するため、県内の高校生や大学生等が作成する動画コンテスト等、若者を犯罪に加担させない取組を実施します。

## 【持続可能な環境づくりの推進】

- ・プラスチックごみ対策を総合的に推進するため、全国豊かな海づくり大会関連イベントにおけるプラスチック代替容器導入を支援します。



環境保全団体による清掃活動

## (2)「元気」の大分県づくり

### 【農林水産業の成長産業化】

- ・本県の顔となる園芸品目を育成し、生産拡大を図るため、短期集中県域支援品目の「生産拡大計画」や、市町の「園芸産地づくり計画」に基づき認定農業者等が行う栽培施設の整備等を支援します。
- ・市町が行う未利用農地等を活用した園芸団地化プランの作成を後押しし、計画的に農地を集約します。
- ・畜産における自給飼料の生産基盤を確立するため、遊休農地等を活用した放牧地整備を支援します。
- ・早生樹による再造林を推進し循環型林業を確立するため、苗木の増産に必要な施設整備等を支援します。
- ・水産資源の保護や海・河川的环境保全の大切さを広く発信するとともに漁業の振興と発展を図るため、第43回全国豊かな海づくり大会及び関連行事を開催します。
- ・担い手の確保・定着のため、就農準備資金等を受給しながら研修に取り組む子育て世帯に対し給付金を上乗せするとともに、産前産後における代替労働力の確保に対する支援を拡充します。



全国豊かな海づくり大会  
イベントでの漁船団パレード

### 【商工業の振興と人材確保】

- ・県内中小企業の資金繰りを支援するため、県制度資金に、新商品開発やデジタル化等、県の各種支援策と一体となって取り組む事業者向けの資金を創設するなど、800億円の新規融資枠を設定します。
- ・生産性向上による持続的な賃上げを実現していくため、事業場内最低賃金を一定額以上引き上げた県内の中小企業・小規模事業者が行う設備投資等を支援します。
- ・多様な人材が意欲・能力を十分に発揮できる魅力ある職場環境づくりを推進するため、企業の働き方改革を後押しするとともに、男性育休取得の促進に取り組む中小企業を支援します。
- ・外国人材の受入れ・定着を推進するため、海外に向けて県内の情報を発信するとともに、就業環境等の整備に取り組む企業等を支援します。



県内企業向け  
外国人雇用リーフレット

### 【観光産業の振興】

- ・DESTINATIONキャンペーンの成功と県域での効果波及のため、カルチャーイベントの開催や民間事業者と連携したプロモーション等に取り組むとともに、継続的な観光需要喚起に向けた総合的な誘客対策を実施します。
- ・アドベンチャーリズムを推進するため、動画による情報発信を通してアウトドアガイドの確保、育成に取り組むとともに、自然や歴史・文化など地域資源を活かした体験型観光コンテンツの創出を支援します。
- ・インバウンド誘客の拡大を図るため、東アジア等への情報発信を強化し、リピート層の取込みを加速するとともに、新たに米国に戦略パートナーを配置します。
- ・これまで交流を重ねてきた台湾に加え、訪日客のさらなる増加が見込まれる米国に対し、県産品の輸出拡大等も含めた海外プロモーションを実施します。



国東半島峯道ロングトレイル

### 【芸術文化の振興】

- ・芸術文化の創造性を活かした地域振興等を図るため、アルゲリッチ音楽祭等に合わせ「まちなかアートフェスタ」を開催します。

### 【スポーツの振興】

- ・トップアスリートの競技力向上を図るため、日本代表候補選手が国際大会に出場する経費の一部を助成します。



(C)脇屋伸光

アルゲリッチ音楽祭

### (3)「未来創造」の大分県づくり

#### 【交通ネットワークの構築】

- ・県民生活に欠かせない地域交通を下支えするため、乗務員の免許取得やEV車両の導入費用等を助成します。
- ・ホーバークラフトの利便性向上に向け、ホーバーターミナル大分(西大分)と大分駅を結ぶシャトルバスの運行を実証します。
- ・東九州新幹線や豊予海峡ルートの実現に向け、国への要望活動を行うとともに、地元機運を醸成するため、九州・四国の関係機関と連携したシンポジウムを開催します。



ホーバークラフト

#### 【企業立地・産業集積の促進】

- ・戦略的・効率的な企業誘致を推進するため、誘致企業の設備投資及び雇用創出に対し助成します。
- ・大規模な工業団地整備に向けた適地調査を行うほか、市町村が実施する用地測量等を支援します。



中津市に誘致した半導体企業

#### 【移住の促進】

- ・IT分野及び医療・福祉分野への転職を考える移住希望者に対し、新たにWebマーケティングも対象に加え、技術習得から移住、就職、定住まで一貫して支援します。

#### 【大分県版カーボンニュートラルの推進】

- ・大分コンビナートのカーボンニュートラルと持続的発展の両立を実現するため、民間企業による設備等の導入可能性調査や設備整備等を支援します。
- ・県内のエネルギー関連産業の成長を促進するため、水素の製造から運搬、利活用に係るモデル構築に取り組むとともに、燃料電池トラックや地熱利用の設備を導入する事業者を支援します。

#### 【先端技術への挑戦とデジタル社会の実現】

- ・次世代空モビリティ産業の振興を図るため、参入に挑戦する県内企業を支援します。
- ・ロボット・AIなどを活用した新産業創出や地域課題の解決を図るため、産学連携した先進的プロジェクトに挑戦する県内企業を支援します。
- ・生産性向上に向けて、データに基づく経営を行う中小企業の創出を推進するため、データ経営の普及に向けた支援人材を育成します。



空飛ぶクルマの機体開発等に向けた覚書締結

#### 【教育県大分の創造】

- ・どの地域においても生徒の可能性を最大限に伸ばし、多様で質の高い高校教育を提供するため、遠隔教育システムを整備します。
- ・不登校等の児童・生徒に対する学習機会充実のため、学習支援などを行う登校支援員を増員するほか、フリースクールに通う児童・生徒に対しICTを活用した学習支援システムを配備します。
- ・休日の部活動の地域移行に取り組む市町村を後押しするため、地域クラブ等との調整を担うコーディネーターの配置などを支援します。
- ・ものづくり産業を支える高度な人材を育成するため、県立工科短期大学の学生を対象とする給付型奨学金を創設します。



遠隔授業の様子



# 8. 大分県管内図、県のシンボル



※令和4年7月1日現在

<県木 豊後梅>

<県鳥 メジロ>

<大分県応援団”鳥” めじろん>



【昭和41年8月16日制定】  
豊後梅は、古くから豊後の名産として知られていました。花は大輪で淡紅色をおびています。

【昭和41年2月1日制定】  
メジロは全国的に生息している鳥ですが、大分県のメジロは、色彩が美しく、よく鳴くことから、古くから豊後メジロとして全国的に有名で、県民に愛されています。

【平成16年12月24日誕生】  
第63回国民体育大会のマスコットキャラクターとして生まれ、現在も大分県の応援団”鳥”として世界で活躍しています。  
身長:乾いたけ 20.08個分  
体重:カボス 200.8個分



大分県



大分県企画振興部政策企画課  
TEL:097-506-2031  
FAX:097-506-1722  
〒870-8501  
大分県大分市大手町3-1-1

令和6年5月作成